

九州・沖縄母子保健研究 2 歳時追跡調査の結果 妊娠中脂肪酸摂取と生まれた子のアレルギー疾患リスクとの関連

背景：大阪母子保健研究では妊娠中の α リノレン酸とドコサヘキサエン酸摂取が生まれた子の喘鳴に予防的で、リノール酸摂取はアトピー性皮膚炎のリスクを高めました。他国でも報告がありますが、結果は一致しておりません。

方法：九州・沖縄母子保健研究の 2 歳時までの全ての調査に参加し、生後 23～29 ヶ月に 2 歳時追跡調査に回答した 1354 組の母子を対象としました。International Study of Asthma and Allergies in Childhood に基づき、喘鳴とアトピー性皮膚炎を定義しました。母親の年齢、妊娠週、居住地域、子数、両親の教育歴、家計の年収、両親のアレルギー性疾患既往歴、出生時体重、子の性別、妊娠中母親喫煙、1 歳までの受動喫煙、母乳摂取を交絡因子として補正しました。

結果：喘鳴とアトピー性皮膚炎の有症率はそれぞれ 27.6%と 16.9%でした。エイコサペンタエン酸+ドコサヘキサエン酸摂取と喘鳴との間に有意な量-反応関係を認めましたが、4 分位の各オッズ比は有意ではありませんでした。アトピー性皮膚炎とはそのような負の関連はありませんでした。肉類、魚介類、総脂肪、飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、総 n-3 系不飽和脂肪酸、 α リノレン酸、総 n-6 系不飽和脂肪酸、リノール酸、アラキドン酸、コレステロール摂取及び n-3/n-6 比はいずれも喘鳴及びアトピー性皮膚炎と有意な関連を認めませんでした。

妊娠中EPA+DHA摂取と2歳時アレルギーリスクの関連

(n = 1354)

(g)	喘鳴		アトピー性皮膚炎	
	リスク	補正オッズ比	リスク	補正オッズ比
Q1 (0.22)	100/338	1.00	48/338	1.00
Q2 (0.35)	103/339	1.07 (0.76-1.51)	62/339	1.35 (0.89-2.06)
Q3 (0.47)	93/338	0.87 (0.62-1.24)	55/338	1.18 (0.77-1.82)
Q4 (0.73)	77/339	0.70 (0.49-1.003)	64/339	1.42 (0.93-2.17)
P for trend		0.02		0.19

結論：妊娠中の魚介類由来 n-3 系不飽和脂肪酸摂取は生まれた子の喘鳴に予防的なものかもしれません。

出典： Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Arakawa M. Maternal fat intake during pregnancy and wheeze and eczema in Japanese infants: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. *Ann Epidemiol.* 2013; 23: 674-680.